



かすりの着物にほっかぶり姿で踊る婦人会のみなさん。息のぴったりあった踊りに大きな拍手が

## あきたノスタルジー

秋田の昔を、写真で振り返ります。

昭和36年10月8日、秋田国体開会式。

八橋陸上競技場に集まった1万4,000人の選手団、3万人もの大観衆を前に  
婦人会、青年会1,400人による民謡踊りが披露されました。

秋田国体は民謡国体ともいわれ、郷土色豊かなアトラクションに大喝采。  
この晴れ舞台のために、3年もの長い間、練習を積んだといわれています。  
民謡踊りの練習がある時は、地域のみんで手分けして農作業をしたり、  
小さい子どもの面倒をみてあげたりしたそうです。

「秋田国体を自分たちで盛り上げよう」、そんな雰囲気が市民に浸透していました。

そして、この夏のワールドゲームズ。

あの時と同じように、人情味あふれる秋田らしさを全国そして世界に印象づけた大会でした。



佐竹市長とお別れをするエレナさん

市スポーツ国際交流員(新体操)

## エレナさん ありがとう!

平成19年の秋田国体に向けた選手強化のため、新体操の指導者としてロシアからお迎えした、ダヴィデンコ・エレナさん。このほど2年半の任期を終え、ロシアに帰国しました。

エレナさんは、ロシアナショナルチームのコーチを務める実力者。秋田では小中高校生を中心にレッスンし、ロシア遠征を企画するなど、秋田のレ

ベルアップに力を貸してくださいました。

「新体操のレベルアップに必要なのは個人的な練習を積むこと、笑顔などの表現力をつけることです。そして、大切なのはスポーツを楽しむこと。秋田のみなさんの優しさは忘れません。」

遠くロシアで秋田っ子の活躍を楽しみにしているそうです。